2023年12月31日

年末感謝礼拝説教要約

御霊によって神の御住まいとなる

（エペソ2・22）

きょうは一年の最後の主日礼拝として、恒例によりまして、今年の教会標語である**「御霊によって神の御住まいとなる」**を説教題とし、指針聖句であるエペソ人への手紙2章22節から聞いてまいりたいと思います。

一、聖書のことばの不思議

聖書のことばは不思議なものでありまして、何回読んでも気づきが与えられます。もちろんあまりに自分流の読み方をするのは良くありませんが・・・。ある程度までは、想像たくましくして読んでもかまわないと思います。と言うより、そのような読み方も必要かと考えます。もちろん、テキストから外れる、あるいは文脈から外れる読み方は良くありませんが。

大きな船が停泊していて動かないようにするためには、錨が必要です。聖書を、ある程度まで冒険して読む際に必要なのは、安全な錨の役を果たす、主イエス・キリストの福音です。「みことば」とも言います。多くの場合に「みことばイコール聖書」と受け止めていることと思います。合っています。ですが、何ゆえに聖書はみことば、すなわち神のことばなのかを捉えておく必要があります。何ゆえでしょうか。それは、主イエス・キリストの福音を証言する書として、教会が認めた書だからです。

二、ともに築き上げられる

今年の指針聖句であるエペソ書2章22節のことばを見てまいります。**〈あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。〉**です。この聖句から**「御霊によって神の御住まいとなる」**を標語としました。

この聖句の原文における強調点は「ともに築き上げられる」です。と言いますのは、この一文の中で、動詞は「ともに築き上げられる」という一語だけだからです。「ともに築き上げられる（スノイコドモー）」とは、「共に家を建てる」という意味の一つのことばで、現在形です。教会というキリストのからだは、イエスをキリストと信じる複数名によって建て上がります。主イエスを信じていても、一人では建て上がりません。主イエスを信じたら、一人で信じているのは良くありません。なぜなら、「ともに築き上げられる」「共に建てられる」のが、主の御意思だからです。フランシスコ会訳は「ともに組み入れられ」、塚本訳は「一緒に建て合わされ」と訳出しています。

今の時代は、インターネットの普及によりまして、だれでも簡単に、それこそスマホでも、自宅で礼拝に参加することができるようになりました。すばらしいことです。ですが、今年の5月に教区聖会が十條基督教会を会場にして行われた際、スタッフの方が言っていました。その方は、会場で出席し、その後でユーチューブで見たそうです。「全然ちがう」と。私なんかは、教会で、パブリックビューイングで参加しましたので、「便利だなぁ。わざわざ聖会場に行かなくて助かる」と思っていました。ですが、会場で出席するのと、ネットで参加するのとではちがうようです。もちろん教会に所属するとは、礼拝だけではありません。みんなと じかに顔を合わせること、あいさつをすること、会話を交わすこと、一緒に奉仕をすることが含まれます。そういうわけで、どうしても教会に行かれない場合を除き、出かけて行って、共に礼拝し、共に神の御住まいを築き上げる恵みにあずかっていただきたいと願う者です。

三、御霊によって神の御住まいとなる

教会とは不思議です。私共は、特別に仲が良いわけではありません。もちろん仲が悪いよりも良いに越したことはありませんが。教会の中では仲たがいが起きて、しばらく尾を引きずる場合もあります。あるいは、牧師または教会員に、非常に個性的な方がいて、そのことのために頭を悩ますこともあります。あるいは教会に中で、問題を起こす方が現れたりします。以上述べたことは、ない方がよろしいです。すなわち、仲が良いほうがいいですし、あまりにも変わっている人がいることによって、周囲が困らないほうがいいです。ですが教会は、主イエス・キリストを信じて、父・子・聖霊なる神を礼拝することにおいて、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとされているのです。みんなが仲良くなって、「私たちは一致している。ここに御霊がおられる」と語るのが、主のみこころと一致するのではないと、私は受け止めています。

そういうわけで皆さま。何があっても主イエス・キリストを信じ、父・子・聖霊としてご自身を現された神を見上げて行こうではありませんか。

「御霊によって神の御住まいとなる」とは、私たちが到達できたと思った途端に、まだ先があると思えるものです。あたかも山に登っていて、「あそこが頂上だ！ 到達地点だ！」と思っても、その場所に行くと、さらに先があることに気づくのと似ています。これが、信仰生活です。来年も、主にあってがんばりましょう。自分でがんばる必要はありません。主にあってです。